

第1号(1992年)

本覚坊と利休四畳半	中村 昌生
古今伝授と茶湯	古賀 健藏
『三斎公より将監聞書』と『三斎公御茶書』	谷 晃
金森宗和茶会記人名索引	中井 香織
金森宗和茶会記人名一覧	谷 晃・中井 香織

第2号(1993年)

桂離宮茶屋建築覚書	建部 恭宣
野村美術館蔵・旧加賀藩前田家の能装束をめぐって	正田 夏子
『茶経』研究の諸問題	東 君
[翻刻] 雛屋立圃道之記	古賀 健藏
小堀遠州筆『茶入之次第』について	谷 晃
[翻刻] 『茶入之次第』	谷 晃
織田有楽茶会記人名一覧・索引	堤 由紀子

第3号(1994年)

池田孤村とその周辺	影山 純夫
賓儀としての茶礼	金 巴望
長絹考	堀 修
『山上宗二記』を贈られた岩屋寺	千原 弘臣
[研究ノート] 土屋家の茶の湯 一大名家の茶道史研究の基礎作業	木塚久仁子
『君台観左右帳記』の成立に関する一考察	谷 晃
[翻刻] 国立歴史民俗博物館蔵『君台観左右帳記』	谷 晃
[翻刻] 近江孤蓬庵小堀遠州茶会記	堤 由紀子

第4号(1995年)

千利休の政治的側面	オルガ・ポホリレス
茶会記に見る朝鮮陶磁の受容	谷 晃
団扇形画面形式の邸内遊楽図とその工房について	知念 理
—野村美術館蔵「池坊専好立花・風俗図」本を中心に—	
蒔絵師原羊遊齋と松平不昧	小林 祐子
[資料紹介] 徳川家伝来 短冊手鑑	島村 芳宏
[資料紹介] 雛屋立圃筆 三十六歌仙	古賀 健藏
[翻刻] 彦根城博物館蔵 御茶之湯会席帳	野村美術館学芸部

第5号(1996年)

近世初期京都能楽界の動向	-----	天野 文雄
—岡家等蔵『観世流仕舞付』に所見の役者と数寄者をめぐって—		
茶会記に見る中国陶磁の受容	-----	谷 晃
絵高麗	-----	鈴木 裕子
—生産年代へのアプローチ 伝世品の観察と国内の出土資料の検討—		
近世京都の東山における別荘地の形成と数寄空間	-----	矢ヶ崎善太郎
[調査報告] 野村美術館の舞楽面	-----	堤 由紀子

第6号(1997年)

清水焼の成立と展開	-----	岡 佳子
日本茶道具の中の福建陶磁	-----	栗 建安
茶入序考	-----	谷 晃
狩野晴川院筆『四季耕作図屏風』について	—御用絵師の仕事—	榊原 悟
[資料紹介] 野村美術館蔵『讃岐入道集』(顕綱集)について	-----	伊井 春樹
[補遺] 「関三与」追考	—近世初期京都の能の数寄者の横顔—	天野 文雄
[調査報告] 野村美術館所蔵の能面	-----	堤 由紀子

第7号(1998年) 《売切》

桂離宮と修学院離宮の引手・釘隠	-----	久保 智康
—十七世紀金具工房の位置づけについて—		
茶会記に見る書画	-----	谷 晃
台子成立についての試論	-----	神津 朝夫
茶の湯における中国製茶入の受容	-----	稲垣 正宏
—考古学的視座からのアプローチ—		
[研究ノート] 幕末明治初期茶道史への一試論	-----	市村 祐子
—大坂町人大庭屋平井家十代貯月菴宗従の遠州流茶道を中心として—		
[研究ノート] 蒔絵屋に関する一考察	-----	赤石 敦子
[資料] 「塗物茶器」文献史料	-----	内田 篤呉・近藤真知子

第8号(1999年)

土佐光成筆 十二首和歌絵屏風について	-----	田中 敏雄
「珠光緞子」松屋肩衝茶入仕覆について	-----	吉岡 明美
[研究ノート] 茶杓の変遷からみた天正十五年の位置づけ	-----	高橋 清文
—利休茶湯の成立時期に関する試論—		
[翻刻] 野村得庵茶会記(一)	-----	野村美術館学芸部
[史料講読] 宣和奉使高麗図経(一)	-----	環黄海文化研究会

第9号(2000年)

近世における楽焼伝統の構造	モーガン・ピテルカ
[研究ノート] 中国の茶文化と日本の茶文化(一)	呉 詩池
[研究ノート] 福建省平和田坑窯素三彩磁器の特色及び起源	梅 華全
[研究ノート] 古染付の「詩画磁」についての一考察	葉 文秀
『先祖記』と大文字屋 ー京都の豪商大文字屋の盛衰ー	谷 晃
[翻刻] 先祖記	谷 晃
[翻刻] 野村得庵茶会記(二)	野村美術館学芸部

第10号(2001年)

[研究ノート] 国学者近藤芳樹資料に見る画家達	影山純夫
[研究ノート] 座敷飾りににおける蒔絵調度	内田篤呉
[研究ノート] 思普区古代漢人の中国茶文化発展への貢献	黄 桂 枢
[資料紹介] 出土資料から見た仁清	鈴木裕子
[史料講読] 宣和奉使高麗図経(二)	環黄海文化研究会
[訳注] 呉覺農著『茶経述評』(上)	顧文・布目潮ふう
[翻刻] 野村得庵茶会記(三)	野村美術館学芸部

第11号(2002年)

[研究ノート] 御伽衆小寺休夢の基礎的研究	渡邊 大門
[研究ノート] 明治初・中期、女子中等教育における「花」・「茶」の受容 ー京都府女学校を中心にー	小林 善帆
[研究ノート] 「茶屋染」考ーその名称の由来と豪商茶屋家をめぐってー	遠藤 貴子
[研究ノート] 中国の茶文化と日本の茶文化(二) ー中日茶文化の関係を兼ねてー	呉 詩 池
[資料紹介] 石田家所蔵書簡 ー近代日本美術と放光堂 ー	赤石 敦子
[訳注] 呉覺農著『茶経述評』(下)	顧文・布目潮ふう
呉覺農著『茶経述評』 解題 ー「精飲」と「清飲」をめぐってー	顧 文
[翻刻] 野村得庵茶会記(四)	野村美術館学芸部

第12号(2003年)

館柳湾と煎茶の師友	船阪 富美子
[研究ノート] 相阿弥再考 ー文献史料にもとづいて ー	家塚 智子
[研究ノート] 「天啓年製」銘の古染付についての一考察 ー樹枝文を手がかりとしてー	葉 文秀
[研究ノート] 野村美術館所蔵「多賀切」について	日比 信子
[報告] 普洱茶文化	何 仕 華

[史料紹介] 金森宗和の書状(一)	-----	谷 晃・武田 清明
[翻刻] 野村得庵茶会記(五)	-----	野村美術館学芸部

第13号(2004年) 《特集 茶入》

福州地区における「薄胎醬釉器」の発見と研究	-----	栗 建 安
かん州窯黒釉茶器について(石崎泰之訳)	-----	薛翹・劉勁峰
中国産茶入研究序説	-----	谷 晃
伝世品の唐物茶入と和物茶入の窯分けの歴史について	-----	砂澤 祐子
瀬戸茶入の製作年代	-----	井上喜久男
京焼の茶入	-----	岡 佳子
博多出土の唐物茶入	-----	田中 克子
長崎出土の茶入・香合 一考古学における茶器評価の問題点 一	-----	川口 洋平
高取の茶入 一その特質と成立の経緯 一	-----	尾崎 直人
薩摩の茶入 一御里窯出土品から 一	-----	関 一之
日本国内遺跡出土の中国産茶入について	-----	稲垣 正宏
伝世唐物茶入の写真と実測図	-----	鈴木 裕子
唐物茶入文献資料	-----	影山 鈍夫
古今唐物茶入一覧	-----	野村美術館学芸部
陶工から見た茶入考	-----	杉本 寿樹

第14号(2005年)

[研究ノート] 金森宗和の花押と結所	-----	武田 清明
[史料紹介] 金森宗和の書状(二)	-----	谷 晃・武田 清明
[研究ノート] 尾張徳川家大曾根邸「山の茶屋」成立と位置づけ	-----	谷口 剛久
[調査報告] 塗師佐野長寛の作品	-----	江頭 幸恵
[翻刻] 野村得庵茶会記(六)	-----	野村美術館学芸部

第15号(2006年)

中日茶文化交流論 一日本茶道成立のメカニズムについて一	-----	藤 軍
教育としての「花」	-----	小林 善帆
一「花」「茶」はどのようにして女性のなすべきものとなったのか一		
《小特集 利休再考》		
侘数寄と千利休	-----	神津 朝夫
『利休茶会記』の再検討	-----	影山 純夫
一『利休百会記』と『利休茶湯記』一		
「待庵の床の間」考	-----	矢ヶ崎善太郎
一『数寄屋工法集』の「利休囲之事」について一		

利休神話の形成	-----	谷 晃
[研究ノート] 藤原時代の文学と装飾料紙について	-----	陳 碧 華
-「西本願寺本三十六人家集」を例に-		
[史料紹介] 金森宗和の書状(三)	-----	谷 晃・武田 清明
[翻刻] 野村得庵茶会記(七)	-----	野村美術館学芸部

第16号(2007年) 《特集 煎茶》《売切》

「煎茶」の語義について	-----	大槻 幹郎
文楽・植村霞亭の茗筵を読む	-----	佃 一輝
室町水墨画の「煎茶」-文人図様をめぐる-	-----	城市 真理子
『青湾茶会図録』にみる煎茶器の取り合わせについて	-----	守屋 雅史
文人画家・田能村直入の建築活動について	-----	矢ヶ崎 善太郎
小石元瑞筆煎茶会記 -『福嶋元輔追福茶宴之記』 解題-	-----	船阪 富美子
鷹司政通煎茶会記	-----	谷 晃
遺跡出土の煎茶道具-西日本-	-----	稲垣 正宏
遺跡出土の煎茶道具-東日本-	-----	鈴木 裕子
茶人の消息	-----	野村美術館学芸部

第17号(2008年) 《小特集 草創期の茶の湯》

【小特集 草創期の茶の湯】

草創期の茶の湯をめぐる研究動向	-----	八尾 嘉男
闘茶の方法とその発展	-----	神津 朝夫
十五世紀中期の茶の湯と連歌 -『経覚私要鈔』を中心に-	-----	小林 善帆
茶の湯草創期に関連する建築研究リストと義教の室町殿会所復元案	-----	桐浴 邦夫
茶の湯草創期の茶具足	-----	谷 晃
遺跡出土の十四・十五世紀茶道具	-----	稲垣 正宏
《資料紹介》近藤芳樹収集「書画帖」について	-----	田中 敏雄
《研究ノート》近世後期の本願寺御用商人にみる“芸能”の姿	-----	井上 秀二
-猪上七郎右衛門の能と茶道-		
《資料紹介》能面源流考	-----	曾我 孝司

第18号(2009年)

新羅花郎の茶道成立年代攷	-----	金 明培
大名・京極高和と御室焼	-----	武田 清明
畳紙墨書より探る加賀藩主の能、そして富山藩の場合について	-----	村上 尚子
-野村美術館・彦根城博物館所蔵能装束より-		

〔研究ノート〕 茶の湯における香りへの意識に関する研究—	-----	小泉祐貴子
—茶書を題材として—		
〔調査報告〕 羽箒と茶人 —形態から見る羽箒への思い入れ—	-----	下坂 玉起
煎茶関係参考文献目録	-----	守屋雅史・船阪富美子
〔翻刻〕 野村得庵茶会記(八)	-----	野村美術館学芸部

第19号(2010年) 《特集 『茶譜』》

『茶譜』解題	-----	谷 晃
『茶譜』にみる茶室・露地の用語と利休の茶室	-----	矢ヶ崎 善太郎
『茶譜』にみる寛永年間から寛文年間の京都の茶の湯	-----	八尾 嘉男
『茶譜』に記される竹の茶道具	-----	池田 瓢阿
—利休作 竹一重切花入「園城寺」を中心に—		
点前に関する記述からみた『茶譜』	-----	廣田 吉崇
—茶の湯点前の変遷とその一断面—		
芦屋釜の鑄造技術	-----	新郷 英弘
〔調査報告〕 春正作「茶摘蒔絵香筆笥」と『都名所図絵』	-----	秋間 敬代
—近世漆芸意匠にみる版本挿絵の利用—		
〔資料紹介〕 『神農本草経』の茶について	-----	岩間 眞知子
—森立之『本草経攷注(考注)』「苦菜」翻刻・訓読・注—		
野村得庵と煎茶 —野村得庵筆蔵帳『文房具・煎茶器』より—	-----	船阪 富美子
〔翻刻〕 野村得庵筆蔵帳『文房具・煎茶器』	-----	船阪 富美子
〔翻刻〕 野村得庵茶会記(九)	-----	野村美術館学芸部

第20号(2011年) 《売切》

茶の湯における唐物銅器	-----	久保 智康
なぜ風炉濃茶点前には「一杓の水」をさすのか	-----	廣田 吉崇
—茶の湯点前の形成とその理由付けについて—		
寛永三年の二条城行幸時における遠州茶会の目的	-----	深谷 信子
—前田家・浅野家家中を客として—		
〔調査報告〕 野村得庵と竹の茶道具 —その一 籠花入と竹花入—	-----	池田 瓢阿
〔調査報告〕 野村美術館蔵の能管	-----	高桑いづみ
〔翻刻〕 野村得庵茶会記(十)	-----	野村美術館学芸部

第21号(2012年)

茶杓からみた茶の湯の芸態の変遷	-----	廣田 吉崇
—茶杓の数量的データによる分析の試み—		

近世初期の文化的世界における町代古久保家	鳥羽田真樹子
江戸文人の視覚文化－売茶翁を中心として－	古郡紗弥香
〔研究ノート〕美術史・民具学・考古学における茶臼研究－研究史と課題－	桐山 秀穂
〔研究ノート〕『茶之湯扣』から見た速水宗達の茶の湯	井上 秀二
〔資料紹介〕大燈国師墨蹟「白雲偈」小考	宮武 慶之
〔調査報告〕野村得庵と竹の茶道具－その二 茶杓－	池田 瓢阿
〔翻刻〕野村得庵茶会記(十一)	野村美術館学芸部

第22号(2013年) 《特集 韓国の茶文化》

韓国茶文化史	金 相鉉
高麗李穡の茶供にみる風流の美意識	鄭 英善
朝鮮後期茶文化の概観	鄭 珉
韓国の茶聖、草衣禪師	朴 東春
－草衣禪師の茶文化中興の背景を中心に－	
韓・中・日の茶文化教育の比較研究	金 純珍
－高等教育機関を中心に－	
脇田直賢(金如鉄)と子孫の生き方	崔 官
高麗時代の青磁と茶文化	張 南原
南宋と高麗の茶文化交流	關 劍平
日本の茶文化と韓国の茶文化	谷 晃
日本における韓国茶文化研究史	鄭 銀珍

第23号(2014年)

〔論文〕点前にみる茶の湯の伝統と変化	廣田 吉崇
－逆説的存在としての家元－	
〔研究ノート〕イエズス会修道院内の茶の湯文化	スムットニー・祐美
－ヴァリニャーノ師の史料に基づいて－	
〔研究ノート〕表具にみえる文化的価値の再検討	高田 智仁
－春日大社所蔵水谷川家旧蔵の掛軸群を中心に－	
〔研究ノート〕茶は「くすり」	岩間真知子
〔調査報告〕野村美術館所蔵の能面について	田邊 三郎助
〔調査報告〕野村得庵と竹の茶道具－その三－	池田 瓢阿
〔調査報告〕野村美術館所蔵の茶臼	桐山 秀穂
〔調査報告〕与謝蕪村筆「草廬三顧・蕭何追韓信図屏風」について	鄭 涵云
〔資料紹介〕祖録写本にみる青年期の宗峰妙超墨蹟	宮武 慶之
〔資料紹介〕野村得庵の大正四年の写生旅行	松尾 敦子
〔翻刻〕野村得庵茶会記(十二)	野村美術館学芸部

第24号(2015年) 《特集 韓国陶磁器のなかの高麗茶碗》《売切》

高麗・朝鮮陶磁史概説	尹 龍二
朝鮮半島の陶磁器文化と高麗茶碗	吉良 文男
井戸茶碗は何であって、御本茶碗はいつ、どこで作られた物だろうか。	申 翰均
十九世紀末～二十世紀前半の韓国における日本陶磁の受容	張 南原
韓国陶磁研究史と浅川伯教 —窯跡調査を中心として—	鄭 銀珍
高麗茶碗の生産時期と茶会記に見る高麗茶碗	谷 晃
高麗茶碗を作る —「写し」を超えて—	中村 康平
日本出土朝鮮王朝陶磁の考古学的研究の現状	桐山 秀穂
—十五世紀から十六世紀の朝鮮王朝陶磁を中心として—	
[調査報告] 野村得庵と竹の茶道具 —その四 籠炭取・釜敷ほか—	池田 瓢阿
[翻刻] 野村得庵茶会記(十三)	野村美術館学芸部

第25号(2016年) 《売切》

川上不自を新宮水野家領政史上へ位置づける試み	岩崎 竹彦
[研究ノート] 「不自筆記」が伝える数奇の意匠とその心	飯島 照仁
[研究ノート] 「七事」の成立	山田 征子
遠州・不昧に傾倒する野村得庵	桐山 秀穂
—光悦会から御大典奉祝茶会までを中心として—	
[研究ノート] 青木木米と煎茶 —田能村竹田との関係を通じて—	島村 幸忠
[研究ノート] 近世後期の茶堂家元の下向と門人の上洛について	井上 秀二
—山陽道の岡山を中心に—	
[研究ノート] 蛇蝸薬の考察 —作り手からの試論—	下高原 正人
[調査報告] 高麗堅手鉢子茶碗銘《白妙》について	宮武 慶之
[調査報告] 野村美術館蔵『是害房絵』について	久留島 元
[翻刻] 得庵茶会記(十四)	野村美術館学芸部

第26号(2017年)

小堀遠州の職務と茶の淵源 —揺籃期—	深谷 信子
流派としての遠州流の展開 —その系譜と点前—	廣田 吉崇
謎の遠州七窯 —伝承と実態の間隔—	梶山 博史
小堀遠州の庭 —歴史と伝説の合間から—	エマニュエル・マレス
小堀遠州に見る竹と籠の茶道具	池田 瓢阿
松花堂昭乗と小堀遠州	川畑 薫
[翻刻] 金森宗和筆『茶湯百会献立式』	谷 晃・武田 清明

※ 在庫・購入方法等につきましては、美術館までお問い合わせ願います。